



たまシネマ通信

TAMA映画フォーラム実行委員会
〒206-0025 多摩市永山1-5
ベルブ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661
直通:080-5450-7204
<http://www.tamaeiga.org/>

September
2011

9/3 (土) 特別上映会

無常素描

大地揺れ、津波の跡、^{あと}後。^{あと}
あれから半年あまり——



鉄道がなかなか復旧せず、帰宅困難者が街にあふれた。電話もつながらず、かろうじて使用できたメールとインターネットで安否を確かめ、徒歩で帰路を急いだ……2011年3月11日の首都圏の混乱を思い出してほしい。

テレビでは、大津波に襲われた東北地方沿岸部の映像が繰り返し放映されていた。気仙沼市では夜になって大規模な火災も発生した。その後、東京電力福島第一原発の爆発、急に発表された計画停電、飲料水やインスタント食品、電池などの買い占めなどが次々に起こった。なかでも、目に見えない放射性物質の今後の影響と、土壌や食品などの放射能汚染への不安は今も変わることなく続いている。8月23日時点で死者15,726名、行方不明者4,593名、負傷者5,719名、避難者82,634名(政府発表)。東日本大震災は、現在も続く、過去に例をみない大規模複合災害だ。

『無常素描』(大宮浩一監督)は、震災の発生から1か月あまり後の被災地の様子、そこで生きる人びとを収めた映画である。字幕やナレーションを使用せずに津波の「跡」と「後」をスケッチする試みは、テレビや報道写真が伝えなかった感覚を観る者にあたえる。美しくも見える映像に入っていくと、風や波の音、鳥の鳴き声、重機の動作音などが自然と感じられる。一方で、インタビューで向き合う人びとの言葉は訛りがあり簡単に理解できない。が、それが、まさに被災地に立ち、そこで出会った人びとと向き合う感覚を呼び起こす。



被災から1か月あまり経った現場では、まだ震災の意味づけも、復旧・復興のあり方も、上手く言葉にならない。玄侑宗久氏の「無常としか言いようがない」という表現が小さな手がかりを与えるが、それがすべての解というわけでもない。私たちのいのち、生きるということ、ライフスタイルや文明観……さまざまな物事への問いが、浮かんで消えていく。

東京も今回の震災で少なからぬ影響を受けた。半年が経過しようとしている今、日常の光景がかなり戻っている。さまざまな怯えや恐れも多少はおさまったかもしれない。そんななか、『無常素描』は映画として報道とは違うタッチで東日本大震災のことを私たちに刻ませてくれる。今だからこそ、もう一度しっかり向き合うことが、「街角にビルが建つと忘れてしまう」を繰り返さないために大切だと。(上映企画担当 山口)

正直に言うと、スクリーンに映る被災地の光景は、私にとって、「ただの画」にしか過ぎなかった。つまりは、3.11当日、地下鉄の車内で地震に遭い、都内の電車がほぼ動かなくなってしまって帰宅することができず、かろうじて友人の家に泊まらせてもらったが、そこで水が使えないというだけでわめいてしまった私は、被災地を自分の世界とは切り離された他人事としてしか捉えられなかったのである。

瓦礫が広がり、町は海の水に浸り、それでも人々は強く生きようとしていた。「悲しくなった、でも勇気をもらった」…こう言う人もいるだろう。だが、被災地へ行っていない私は、「素描」された光景をそんなたやすい言葉で表すべきではない。時折挟まれる玄侑宗久さんの言葉が胸を深く突き刺す。安い同情をせず、自らの感想を素直に自覚するため、多くの人に観てもらいたい。私は率直にそう思うのみである。(上映企画担当 渡辺)

The sketch of Mujo

映画『無常素描』で撮影された被災地は今、どのような状況なのか。TAMA 映画フォーラム実行委員が実際にボランティアとして参加したレポートをお届けします。

夫の夏休みが早めに取れたので、8月8日から3日間、母の故郷である気仙沼方面でボランティアをしてきました。私は4月中旬に約10日間気仙沼で、6月中旬には日帰り石巻、そして今回で3度目の被災地でのボランティアでしたが夫は初めて。4月同様、今回も私の親戚宅に宿泊しました（私の親戚の多くはいわゆる「自宅避難者」でした）。

ボランティアセンター（以下ボラセン）の当日のマッチング次第だけれど、自分のやりたい作業をしようと夫と事前に相談。最初の2日間は気仙沼市本吉町のボラセンに行き、私は海岸清掃や瓦礫撤去を、夫は写真等の拾得物洗浄を行いました。4月にはボラセンで釘の踏み抜きによる破傷風を強く注意されましたが、今回はハチ刺されによるアナフィラキシーショックとテント泊のボランティアは食中毒への注意、そして皆が一番注意されたのが熱中症でした。親戚宅でスポーツ飲料を凍らせて現場に持参しましたが、気温33～34度のなか、屋外作業だった私は何度か頭痛を起こしかけました。夫は「洗浄したものが本人の手にちゃんと渡るといいなあ。ご本人やその家族が生きてるといいなあ」と作業後ぽつり。

二日目は気仙沼市の2箇所のボラセンが休みなので南三陸町のボラセンへ。志津川の中心部は360度ぐるりと瓦礫、かつ津波により否応なしに更地にされてしまった跡地。周囲の林の最前列の木々はほとんどてっぺん近くまで赤やけしており、まるで切り取り線のようにそこまで潮が到達した証。改めてとてもショックを受けました。そんななか、プレハブだけれど何箇所か営業をしていたコンビニには、とてもほっとしました。

南三陸町の2ボラセンでまず驚いたのがWFP（世界食糧計画）の巨大なテントがボラセンだったこと。日本がスーダンに次いで世界第2位の被援助国になったという3月末の新聞記事を思い出し、震災直後いかに逼迫した状態だったかを改めて実感し、ツイッターで少し書いたら「私たちもまさかWFPのテントを日本に建てることになるとは思いませんでした」とWFP日本事務所の方からコメントをいただきました。

世界各国からどんな援助があったかを少し教えてくれたのが「仮設に移った人に差し入れ持っていったらお返しにもらったの」と叔母が見せてくれた支援物資。よ〜く目をこらすとイラン産の豆の缶詰やタイ産のカップ麺、台湾産のおかゆだとわかるのですが、英語の説明もないものも。「6月初めにもらってきたんだけど、こんなのを避難所では食べてたんだね」と叔母。また冷蔵庫から叔母が出してきた支援物資のミルクはとても不思議な味でそのまま飲むのはかなり難しく、フレンチトーストにする？ それともタピオカを浮かべたら？ と叔母たちとおしゃべり。支援物資だもの、粗末にはできないのです。



各国から寄せられた食料の支援物資

4月に約10日間滞在した時には聞かなかった言葉を、今回ボランティア先や親戚から聞きました。「神戸（阪神淡路大震災）の時にはどうしてあちこちからあんなにボランティアが行くのかわからなかったけど、こうして助けていただくとありがたくて、次があったら・・・もちろん「次」があったらいけないんだけど、私たちもできることをしようって思います」と。復興に向けて気持ちの面でも少しずつ前へと進んでいっているがゆえの、言葉なのだろうと思いました。

（TAMA 映画フォーラム実行委員 O）

7/9 特別上映会報告 『100,000年後の安全』

7/9 (土) ベルブホール (多摩市永山) にて行われた『100,000 年後の安全』特別上映会には3回の上映で300名以上のお客様をお迎えすることができました。皆様、酷暑のなか本当にありがとうございました。また、上映会当日の約1週間前に、開場等を15分遅くすることや整理券配布を決めたりと、チラシ等での告知内容に変更が生じました。お客様全員にこのことをお伝えできず、ご迷惑をおかけしました。当日もいたらない点があったかと思えます。重ねてお詫び申し上げます。

この日は朝からとても暑く、そんななかを私たち実行委員よりも早く到着されたお客様もいらして、飯田哲也さんの人気や原発問題への関心の高さを改めて実感しました。

当初からこの日は講演を最初に行い、その後3回の上映を行うことになっていました。が、ベルブに来られる前に飯田さんはNHKの生放送に出演されることになり、講演開始の時刻に間に合わないため、



飯田哲也さん講演の様子

飯田さんをはじめとする環境エネルギー政策研究所のお考えを同研究所研究員の古屋将太さんにお話しいただき、タクシーで駆けつけてくださった飯田さんにその後バトンタッチ、という講演会になりました。古屋さんのお話の間に飯田さんから連絡の電話をいただき、司会の私は突然舞台袖から消えたりと、結構綱渡り状態でした。

飯田さん・古屋さんのお話は両方とも具体的な数値等を踏まえて明快。持続可能なエネルギー社会とは何か、日本の電力の短期的・中長期的な見通しや、環境エネルギー政策を転換するための要件とは何かということをお話しいただき、満員の会場からの質問にも丁寧にこやかに答えてくださいました。

その後、『100,000 年後の安全』の上映が3回あり、多くのお客様から「タイムリーな企画だった」「原発についてより考えなければ」というお声や、「もっとお話を聞きたかった!」「質疑応答の時間がもっとほしかった!」というお声をたくさん頂戴しました。

原発に賛成であろうと反対であろうと、誰も廃棄物問題からは逃れることができない。そして高知県に最終処分地に立候補しかけた町がある。そのことをずっと胸に抱きつつ、私は上映会まで至りました。少しでもお客様の心に何か届いたのであればとてもありがたいです。皆様、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

(『100,000 年後の安全』上映企画担当 越智)

第21回映画祭運営スタッフ「たまシネマ隊」を募集します

今年で21回目を迎える「映画祭 TAMA CINEMA FORUM」では、映画祭開催期間中（平成23年11月19日(土)～27日(日) [11月21日(月)はお休み]）及び準備期間にお手伝いをしていただける運営スタッフを募集しています。映画祭の舞台裏を体験してみませんか。興味のある方は、説明会にぜひご参加ください。

▶仕事内容

- ①映画祭開催期間中の運営
- ②映画祭に向けたPR活動等
- ③資金作りのための活動
- ④その他さまざまな活動のお手伝い

*映画祭期間中3日以上参加できる方、または準備期間中に活動できる方を歓迎いたします。

*実行委員会は全て無報酬の市民で構成されており、運営スタッフにも活動報酬や交通費などの支給はありません。

▶説明会日時・場所

- ① 10月2日(日)午後3時半～5時
 - ② 10月16日(日)午後3時半～5時
- 消費生活センター講座室（ベルブ永山3階）

▶申込み・問合せ

はがき・電話・ファクシミリ・e-mailで、住所・氏名・年齢・性別・電話番号を明記の上、お申込みください。

〒206-0025 多摩市永山1-5 永山公民館内

TAMA映画フォーラム実行委員会事務局

☎ 337-6661 (代) ☎ 080-5450-7204 (直通)

Fax: 337-6003

e-mail: tcf-cinematai@tamaeiga.org

*メールでのお申し込み後、2,3日経ってもこちらから返信がない場合は恐れ入りますが上記アドレスへ再度メールをいただくか、事務局へお電話いただけますようお願いいたします。

*TAMA映画フォーラムのホームページからもお申込みいただけます。URL: <http://www.tamaeiga.org>

第21回映画祭TAMA CINEMA FORUM 11/19(土)～11/27(日)

毎回、映画祭 TAMA CINEMA FORUM では、多種多様なプログラムを上映企画していますが、なかでもこの映画祭のオリジナリティを表す TAMA 映画賞と TAMA NEW WAVE について簡単にご紹介します。

第3回 TAMA 映画賞

2009年に創設された TAMA 映画賞は、今年度（昨年10月から今年9月に）劇場公開された作品の中から、最も観客に活力を与えてくれた作品・監督・俳優を讃えることを趣旨とした、国内の映画賞の中でも最も早い時期に発表する映画賞です。

[これまでの受賞作品・受賞者（敬称略）]

	第1回	第2回
作品賞	『ディア・ドクター』 (西川美和監督) 『ウルトラミラクルラブストーリー』(横浜聡子監督)	『告白』(中島哲也監督) 『さんかく』 (吉田恵輔監督)
新進監督賞	深川栄洋、北川悦吏子	川口浩史、山本寛
新進男優賞	高良健吾、渡辺大知	大西信満、金田哲
新進女優賞	満島ひかり、金澤美穂	安藤サクラ、忽那汐里
特別賞	八千草薫、木村大作	若松孝二
男優賞	*第2回より創設	堤真一
女優賞		寺島しのぶ

第3回となる今年も、着々と準備中です。華やかな授賞式と受賞作品の上映をどうぞお楽しみに。

(映画祭ツイッターアカウントはこちら → @tamaeiga)

●支援会員随時募集中! (一口千円より) 特別上映会の入場料金が半額、映画祭パンフレット進呈などお得な特典付きです。

第12回TAMA NEW WAVE

日本映画界に新風を送り込む新しい才能を発見し、TAMA より広く発信することを目的として、2000年より開始した TAMA NEW WAVE。国内の中・長編作品を募集し、実行委員の審査を経てノミネートされた作品の中から、委員会内の評価と一般審査員の票によって、グランプリを決定致します。ゲスト審査員の意見を加えて決める特別賞もあります。

[歴代の主な受賞作品 (☆は各監督の最近の活躍)]

	作品名	監督
第2回	『自転車とハイヒール』	深川栄洋 ☆現在『神様のカルテ』が公開中
第8回	『かざあな』	内田伸輝 ☆『ふゆの獣』(2010)が第11回東京フィルメックスコンペ部門最優秀作品賞受賞
第10回	『最低』	今泉力哉 ☆『たまの映画』DVD 発売中
第11回	『未来の記録』	岸建太朗 ☆本作が全国各地の劇場で公開

* TAMA NEW WAVE コンペティションでは、一般審査員を募集します。コンペ当日上映される作品を全てご覧になって投票して頂ける審査員の方を50人程度募集します。詳しくは10月頃にHP上でご案内しますので、ぜひご確認ください。(TAMA NEW WAVE ツイッターアカウントはこちら → @tcf_nw)